

2021 年度第 2 四半期決算説明会 主な質疑応答

1. 民間向けエンジン事業の回復見通しは？来期の黒字化が見通せる状況か？

- ・ 上期は中小型機向けエンジンを中心に緩やかな回復が見られたが、下期はインドや欧州でのデルタ株の影響、中国での渡航制限といった要因により、回復のペースが鈍くなる恐れがある。
- ・ 来年度については、国内線の需要回復に加え、先進国での入国制限解除が進むこと、またインドや東南アジアにおける中小型機の稼働増を想定した黒字化も視野に、これから検討していく。

2. ESG 経営の取り組みにおけるカーボンソリューションの進捗は？

- ・ JERAとのアンモニア混焼の実証については、世界各国の様々な企業から高い関心を頂いているが、この実証が完了する 2025 年度あるいはそれ以降に、事業として形になっていくとみている。
- ・ 再生電力需給システムについては、太陽光発電と蓄電池を組み合わせたシステムの需要が増えている北米において、大型案件を受注。IHI が独自開発したソフトウェアは、据付後もアップデートできる仕組みが大変好評であり、今後を期待している。

3. 資材価格・輸送費の高騰による影響は？

- ・ 影響は大きくない。鋼材や輸送費の高騰を売値に反映する条項を織り込む対応をしているほか、比較的早い段階から、資材の前倒し発注、発注先の変更・拡大等に取り組んでおり、今後も同様の取り組みを継続していく。

4. 民間向け航空エンジン事業のコスト構造強化の進捗は？

- ・ 現時点での進捗は、年度見通しの数字に対して大きくはないが、着実に取り組んでおり、下期にかけて成果を刈り取れると考えている。

5. 半導体不足の車両過給機事業への影響は？

- ・ 上期においては、売上に一定の影響が及んでいるが、自動車の生産台数も今後回復との見通しもあり、年内には生産が戻り、第 4 四半期としては当初の水準まで回復するとみている。
- ・ 一方で、回復の見通しは不透明な部分もあり、このリスクに対してはバッファを当てている。

以上